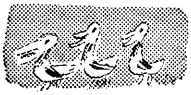

# 子どもとひるね

豊田いと

十二時半――みんな眠ってくれればいいが――ひるねの時間が一番苦痛の種である。重苦しさを感じながらオルガンに向う。

「今日はみんなお目々をつむりましたよ。どなたが一番に眠れるでしょうねえ」子守唄のリズムを流す。夏の幼稚園始って今日で十日になるのに、H君、U君、Sちゃんはたった二回、それも二十分ぐらいの浅い眠りであった。

十秒、二十秒、本当に今日こそはうまくねてくれればいいがと何かに祈っていたような自分に気づく。「先生、便所にいくのを忘れちゃった」と突然H君が起き上ってしまった。〝もう駄目だ〟と情なくなる。靴をひっかけて、ドタンバタン音を立てる。N君、S、Kちゃんがそれにつづく。また狸ねいりと思うと恨めしくなる。

母親たちのプール掃除の音！　ザアザア、ゴシゴシ、ガタガタ！そうぞうしくはいる。せっかく寝つきそうになった子どもも、寝返りを打つ。オルガンを弾く手を止めてレコードにきりかえる。寝つきの悪いU君に添い寝をするためである。頭をなぜたり、背中をたたいたり、うちわで風を送ったりするが、かんじんの本人はときどき片目をあけて私の様子をうかがう。

このU君が早くねてくれれば、H君のところにいけるのに、そう思えば思うほど、U君はそれを察するように半分目を見開いては、笑いを浮かべては私を監視するようだ。

この部屋がいけないのだ。西陽がさして暑いし、天井が高すぎてなんとなく不安定だし、プールに近いのでいつもそうぞうしいからだ。静かな、涼しい部屋であったら、きっと早く寝つくだろうに……どうにかならないかしら……。今日もSちゃんN君、U君はまた

ねむれない子どもと問題行動（表1）

| 計 | E | | | | | D | | | | C | | | B | | | | | | | | A | | | | | | 組 児 題 問 行 動 題 問 内 容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | Y 男 | V 男 | M 男 | H 女 | S 女 | M 女 | S 男 | T 男 | M 男 | I 男 | Y 女 | E 女 | H 女 | E 女 | O 女 | U 男 | K 男 | T 男 | E 男 | M 男 | F 男 | S 女 | K 女 | H 女 | U 男 | S 男 | H 男 | N 男 | |
| 6 | ● | | | | ● | | | ● | | | | | | | | | | | ● | | | ● | | ● | | | | | 落ちつきがない |
| 6 | | | | | ● | | | | | | | | | ● | | | | | | | | ● | | | ● | ● | ● | | 自己活動がない |
| 12 | | ● | ● | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | ● | ● | | ● | ● | | | | | | | | ● | ● | 乱暴 |
| 5 | | | | | | | | | | | | ● | ● | | | | ● | | | ● | | | | | ● | | | | 内気 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 嘘をつく |
| 7 | | | ● | ● | | | | | | | ● | | | ● | | | | ● | | | | | ● | | | | | ● | 神経質 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ひねくれている |
| 8 | | | | | ● | | | | | ● | | | | | | | | ● | | ● | ● | | ● | | ● | ● | | | 依頼心が強い |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 恐怖心が強い |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ● | | 家庭が厳しい |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ● | | | 一人っ子 |
| 5 | | ● | ● | | | ● | | | | | | | ● | | | | | | | | | | | | ● | | | | 不安定 |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ● | | | | | 内弁慶 |
| 8 | | | ● | | | | ● | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | | | ● | ● | | | | | | | 自己中心 |
| 3 | | ● | | | | | | | | | | | | ● | | | | | ● | | | | | | | | | | 泣き虫 |

ねむれなかった。……

**A組担任の教師のある日の記録**にはこんなようななげきが記されていたのです。同じ経験を持つものはだれしもがそのときのいらだたしさ、あせりなど――思い出されることでしょう。ではなぜ眠れなかったのだろうか。担任教師の記録にみられるように通風、採光、騒音、また天候や温度、湿度などの環境から来るものであることも原因の一つに数えられますが、このほか、いろいろ考えてみることが大切ではないでしょうか。

それは、身体的面から見る、子どもたちの個々の体力と疲労度との関係を十分に考慮しなければならないことと、またこれらにもまして、子どもの心の安定度も問題にしなければなりません。ねむれない子どものほとんどが、常に問題行動をもっていること（表1）でもわかります。その二、三の例をあげてみると、

**＊H君**　H君は口やかましい祖母に育てられ、上からの命令なり圧力を加えなければ動かない。集団グループには参加せず傍観的態度である。そして蔭日向のある子である。昼寝の習慣は全くなく、幼稚園でも教師が添い寝をしなければわざと友だちをつついたり、便所にいくのに上履きをバタバタさせて邪魔をしてよろこぶ。

**＊N君**　N君の家庭では、男の子は強いものだということをすべての点に出しすぎるようで、子どもが虚勢をはっている。その反面、母親に対する愛情を要求するような場面が多い。

非常に神経質で、対人関係がうまくいかないときは、始終ブツブ

ツロの中で文句をいい、気がはれるまで何か考えている。また攻撃的な面が強く、何事においても上から強く圧えられると絶対にいうことをきかず、反抗的態度にでる。昼寝の習慣は全くなく、幼稚園のひるねでもオルガンをひいていると、大声をだして子守唄を唱ってみたり、ねている友だちにぶつかってみたりする。

**＊S子**　S子の家庭は子どもが多くS子は五人兄妹の末子であるためか、非常にわがままなところが多い。自分の思うようにならないと、人をたたいたり、つねったりする。注意散漫で落ちつきがなく始終手足をうごかしている。

幼稚園でも教師を独専したいらしく、添い寝をしてくれるときだけはよくねるが、教師がなかなか来てくれないときなどは、友だちの足をくすぐったり、友だちがねているのに、枕元を歩きまわり自分の布団をあちこち持ち歩き敷き直す。

いつも家庭では赤ちゃん扱い。昼寝は必ず母親が添い寝をする。

集団生活にはいりきることができず、自分の背後に信頼する人の目があることを意識すれば動くが、集団の中では非常に不安定である。内弁慶であり一歩戸外に出れば無口、無表情になるとのこと。知能的にもおくれている面が目立つ。

幼稚園児は年齢的にも未分化の時代にあるので、家庭でねるときには父親や母親と、学校では教師がいるといないでは、また親や教師との間に心の結びつきがあるかないかでは〝ひるね〟に相当影響をしてくるものと思われる。教師の心の安定がそのまま子どもにもひびいてくることは、前述したA組担任の日記にもでてくるところであるが、ここにその例をのせてみよう。

**C組担任日記**(抄)○月○日

今日は朝から曇っており、気温が低く、プールに入れようか入れまいか、園長先生から区役所の○○先生に電話でうかがうと「始めて水にはいる子どもではないから水にはいる時間を短かくすればよい」とのこと。われわれはあまり気のりしなかったが、それでは、と支度をさせて入れた。子どものことであるから、水にはいってしまったら、もうしめたもの、笛を吹いもて出ようとしない。泳げる子どもには物足りないかもしれないけれど……ひっぱり上げておひるねの準備。布団は敷いたけれどおちつかない。足をばたばたさせたり、ごろごろころがったり、5分、10分、15分と時間はどんどんすぎていくが、まだ6人しかねていない。D組からのさわぎが聞える。「あーうるさい」と思った。今日はT先生が午後から出張で、園長先生がついていらっしゃる。が、電話がきたり、おやつを分けたりで、なかなかおちついていらっしゃれない。私は、早く自分の子どもをねかしつけて、D組のねないMちゃんたちをねせにいこう、とあせればあせるほどねむらない。いつも寝つきの悪いFちゃんもあいかわらず大きな目をあけている。

「早くねましょう。みんなねてしまったのよ」私もそばに横になったところへ、園長先生がHちゃんをつれて来られた。「こ

の人、騒いで仕方がないから、この組にねせてちょうだい」Hちゃんは泣きべそをしながら、そのまま棒立ちになって、D組に帰るといいだした。私はHちゃんをつれてD組へいき、静かにねることを約束した。

横になりながら、「Mちゃんと、どっちが早いか競争よ」というとMちゃんは、目をぎゅうとして身動きもしない。そのうちにうす目をあけて、ごろごろやりだした。私はすっかりさじを投げてしまった。と、そこへ、私の組の父兄が来て「先生、ちっともねないし、さわいで困るんですよ」

私はすぐいってみると、ちょうどFちゃんが、ねている子どもの足の平をいじろうとしているところ、これはきっと、Fちゃんがおこしてしまったのだとむっとした。

Fちゃんを、廊下に連れていき、今までのことを聞こうとしたが、口を開かない。

私は、「Fちゃん、今日は布団をたたんでお家に帰りましょう」といった。Fちゃんはそれに応じてすぐ帰る支度をはじめた。そのとき、私はもう一度呼びとめ「Fちゃん、お家に帰るの」「うん」「そう、今僕がお家に帰ってしまったらお友だちがFちゃん、どうしたかと思って心配するし、おかあさんだって心配するわよ」「……」「あしたね、おひるねできるでしょう?」「うん」「じゃ、先生とお約束しましょうね」げんまいをした。しょげていたFちゃんはホッとしたのか、笑顔をみせて、友だちの寝覚めを見守っていた。……

この日記からまず感じさせられることは、寝つかせる側――（教師）――の心が十分のゆとりを持っていなければならないということです。D組の担任教師が出張のため、隣室のC組の教師にまで精神的な動揺を与えてしまって、とうとうC組の子どもたちまで眠らさない結果を起してしまったということです。すなわち、教師の不安感情がそのまま子どもに影響した結果によるものです。

ひるねをしない子どもをみると、乱暴であったり、依頼心が強かったり、神経質であるように問題行動が多く、家庭などで心の安定が得られない状態の子どもたちであるようです。

これらの子どもたちからなんとかして不安感情を取り除いてやらなければならないことです。こうした子どもにも家族の者や教師が心から自由と受容の気持を持って迎えてやりさえすれば、次第にねつきもよくなっていくことは、前述の教師の記録でも明らかです。

要するに、子どもの〝ひるね〟は物的環境の整備はもちろんですが、まず教師自身がゆったりした眠りにはいれるような心の状態を保つということが大切なのではないでしょうか。

そうした教師の心情がそのまま子どもに伝って、眠りを誘うようなものになるのでしょう。つまり教師と子どもとの心の結びつきが大切なことであるということがわかったのであります。心の結びつき――の有無こそ、ひるねに限らずあらゆる面にその結果が表われて来るものであります。